

市長総括説明から

5月30日、平成26年第2回市議会定例会が開会しました。

最初に、兵庫県功労者表彰、全国市議会議長会表彰を受けられた議員にお祝いを述べました。

続いて、本市が「第34回日本旅のペンクラブ賞」を受賞したこと、「豊岡エコバレー」と大交流による経済成長への取組みが、国の地域活性化モデルケースに選ばれたことを報告した後、当面する市政の諸課題ならびに提出議案の主なものについて説明しました。その概要をお知らせします。

安全に安心して暮らせるまち

○**円山川水系河川整備計画等**
国による城崎大橋・奈佐小橋間の左岸側特殊堤整備、戸島地区や稲葉川合流部の堤防整備は、継続されます。

中郷の遊水地整備の用地買収は継続され、鶴岡・日置地区無堤防対策の用地買収に着

手されます。

野上地区に仮置きしていた河道掘削土砂は、小川江地区への搬出が終わり、現在、ほ場の整地中です。

下鶴井地区の仮置き土砂は、円山川運動公園への流用土を除き、今年度中に搬出される予定です。

○市立高橋診療所

平成24年から新たな医師を募集し、5月、関東の医療法人と診療所運営の基本協定を締結しました。不採算地区のため、一定範囲で赤字補てんをします。運営形態は、施設無償貸与の民営方式とします。

○豊岡市国民健康保険税条例の一部改正

5月に「平成26年度豊岡市国民健康保険事業運営の基本方針について」の答申を受け、条例の一部改正案を提出しています。

被保険者一人当たりの医療費見込額は、昨年度の国保税算定時と比較して6・5%増、後期高齢者支援金分は対前年度実績値比で3・7%増、介護納付金分は8・9%増となります。

そこで、繰越金1億1千万

円と国民健康保険財政調整基金2億5千万円を充て、被保険者一人当たりの国保税額(基礎課税分+後期高齢者支援金分+介護納付金分)を9万9874円、前年度比6%増に抑えます。

■人と自然が共生するまち

○豊岡市給水条例の改正

給水装置工事設計審査手数料と給水装置工事検査手数料は、平成17年度の合併時から消費税の課税対象とし、税相当分を徴収してきました。

さらに、昨年12月定例議会で、消費税率を8%にする条例改正をしました。

しかし、今年4月に、昨年から豊岡税務署に行った問い合わせに対する回答があり、非課税との国税庁の見解が示されました。これを受け、改正条例案を提出しています。

徴収すべきでなかった消費税相当分は早期に還付します。また、合併前の旧城崎町は、平成9年度から合併直前まで、前述の手数料以外に給水装置工事指定工事店の登録手数料や下水道関係手数料を課税扱いしていたことが分かり、併せて還付します。

市が納付した消費税は、5年間分が国から還付されます。改めて、市民の皆さまに深くお呼びします。

■持続可能な「力」を高めるまち

○海外戦略

近年、本市を訪れる外国人観光客が大幅に増加しています。平成25年の城崎温泉の外国人宿泊客数は年間約1万人で、対前年比で約2倍、平成23年と比べると約9倍です。増加は続き、今年1月から3月の城崎温泉の外国人宿泊客数は、昨年同期の約1・8倍です。

5月に、全国公募した海外戦略推進員が着任しました。7月にパリで開催される、フランス都市連合主催のフォーラムに招待され、本市のまちづくりや環境経済戦略について講演する予定です。あわせて、日本政府観光局パリ事務所や兵庫県国際交流協会パリス事務所、ミシユラン本社等を訪問し、関係強化を図ります。

また、海外最大の日本文化博覧会「ジャパン・エキスポ」の豊岡紹介コーナーを視察し

ます。本市が社員を受け入れている楽天株式会社の好意による情報発信です。

○第5回コウノトリ未来・国際か

国際か

7月に、県・市主催で、「第5回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催します。テーマは「未来へ！野生復帰のすすめ」です。コウノトリ野生復帰事業の現状と課題を認識し、今後の展開について議論を深めます。

コウノトリ野生復帰事業は、平成23年度に県が中心となって策定した「コウノトリ野生復帰ブランドデザイン」「コウノトリ野生復帰推進計画(第2期)」、国・県・市共同主体でとりまとめている「コウノトリ野生復帰検証事業」などを通して、現状と課題が整理されてきています。

○有害鳥獣対策事業

県の補助制度の見直しを受け、市は、今後3年間、シカの捕獲を集中的に進めます。市有害鳥獣捕獲班員のシカ捕獲報償金を増額し、捕獲専任班を新設し、今年度は約6500頭の捕獲を目指します。

嘱託職員を採用し、捕獲専任班のコーディネートなどを行います。

○田結漁港の「ごみ漂着対策の検討」

田結漁港は、円山川の河口に位置しているため、ごみの漂着や砂の体積があり、多額の除去費が掛かっています。そこで、現況分析や要因の推定を行い、対策案を検討します。

○地域経済循環創造事業

国は、地域の金融機関の資金を活用し、地域内の経済循環と雇用を拡大するため、地域経済循環創造事業交付金を創設しました。

市は、事業化のめどが立った3件を申請し、交付決定を受けました。全国の採択件数は35件で、3件の採択は徳島県と並んで全国最多です。

採択を受けた事業は①豊岡のスギ・ヒノキを使用した高級木製ブロック製造②地元間伐材の木質ペレットを熱源とするトマトのハウス栽培③但馬牛・シカ・イノシシ等の地元食材を使った薫製製造です。

○コウノトリ但馬空港の利用状況

昨年度は、12月までは過去最高の利用率を記録しましたが、冬季ダイヤで午後便が繰り上がったことなどにより、年間利用率は対前年度比で2ポイント増の62・2%でした。

伊丹経由の東京乗継利用者は、対前年度比で18%増の1万1113人で、開港以来初の1万人を記録しました。東京直行便の実現に向けて、引き続き、年間利用率70%を目指します。

○全但バス神鍋線の上限200円バス社会実験

昨年4月に開始した、第二期社会実験の評価対象期間が3月末で終了しました。利用者数は、目標の12万1千人に対し、11万1260人で、達成率は92%でした。

しかし、第1期と比べ利用者数は2万3268人増、運賃収入も247万5千円増と大幅に改善しました。

今後、結果分析を進め、地元や運行事業者と協議し、10月以降の方向性を示します。

■未来を拓く人を育むまち

豊岡ががんばりタイム
昨年度の全国学力・学習状況調査の結果、本市の小学校

は、算数、国語ともに全国平均を下回り、学力の向上が喫緊の課題となっています。

そこで、学習の積み重ねが重要な算数に絞り、基本的な計算力を高める補充学習を「豊岡ががんばりタイム」として実施します。対象校は、規模が大きいため、きめ細かな授業実施が難しい、豊岡・八条・五庄・日高・弘道小学校とします。

県費負担教職員の非常勤講師が、週1日から5日、放課後の1時間程度、学校が選定した児童を指導し、学力向上を図ります。事業費は全額県補助金を充てます。

○土曜チャレンジ学習事業

土曜日等に地域の方が講師となり、小学校児童にさまざまな体験活動の場を提供する、県の補助事業「土曜チャレンジ学習事業」を実施します。初年度は五庄・福住小学校で実施し、順次、全校に拡大します。

子どもたちが夢実現力を身に付け、地域の教育力が向上することを期待しています。

■人生を楽しむ

お互いを支え合うまち

○城崎国際アートセンター 設備の充実

城崎国際アートセンターでは、9月に、日本を代表する劇作家・平田オリザさんとカヌ国際映画祭で女優賞を受賞したフランス人俳優の滞在が予定されています。来春には、現在ヨーロッパで最も人気があるとされている演出家の滞在も内定しています。

滞在中に制作される作品は、それぞれ世界初演が豊岡でなされた後、世界各国で上演されます。

11月から来年3月までの間の滞在アーティストの公募では、6カ国25件の応募があり、7件を選定しました。この7件を合わせて、今年度すでに日本を含む世界6カ国15団体の滞在制作が内定しています。

こうした中で、日本を代表する舞台美術家のアドバイスを受け、舞台などの施設を改善します。舞台の改善作業は、舞台芸術のワークショップに参加する学生たちの実習活動として行います。

また、老朽化した排水管の調査とトイレの改修設計を実施します。

○伊藤清永美術館の名称変更

本年度25周年を迎えた伊藤清永美術館は、唯一の市立美術館として地域の芸術文化振興の役割を果たしてきました。しかし、名称に「豊岡市立」が付いていないため、作品交流の際に私的な美術館と誤解されるなどの課題がありました。

そこで、名称を「豊岡市立美術館―伊藤清永記念館―」に改めて、市の美術館としての位置付けを明確にします。

■市政の運営

○がんばる地域交付金

国の平成25年度補正予算に、「地域活性化・効果実感臨時交付金」いわゆる「がんばる地域交付金」が計上されました。

これは、「好循環実現のための経済対策」として、景気回復が波及していない財政力の弱い市町村であっても、地域活性化に取り組めるように創設されたものです。

使途は、建設国債の対象となる国庫補助事業、建設地方債の対象の地方単独事業の財源としても充当できます。

本市への交付限度額はまだ示されていませんが、4億円程度と見込んでいます。